

## 2-2-5 第5分科会「グローバル化時代の秋大生の衣食」

担当者 内田昌功 受講学生 12名

活動概要： 衣服や食というごく日常的なものを材料として、現代社会を特徴付けるグローバル化の動きを確認し、理解を深めることにしました。普段着ている服や食べているものがどこで作られたものか調査し、統計を取って、グローバル化の中にある私たちの生活を浮かび上がらせました。

活動風景：





受講学生の感想（受講生の受講カードより抽出）

- グローバリゼーションについて、確認していった。おおざっぱな知識しかなかったため、初めて知ることが多くあった。調査も頑張っていきたい。（11月4日の感想より）
- テーマは職にとどまらず、衣や日用品について原産地はどこなのか調べ、まとめるということ。非常に興味のある分野なので、今から楽しみです。（11月4日の感想より）
- 中国製商品増加の流れや、生産工場移転先がベトナムに移りつつある背景や企業のねらいについてよく分かりました。国内での雇用確保の難しい側面についても分かりました。（11月25日の感想より）
- 日本（秋田）の20年後について、様々な職業（産業）の観点から考えた結果、政府が移民政策を推奨していることが分かった。しかし、メリット・デメリットはそれぞれあり、将来に直結することなので、よく考えていかなければならないことだと思った（1月27日の感想より）